

【様式24】

提 案 の 概 要

施設名：荒子川公園

団体名：名古屋市みどりの協会・
大島造園土木グループ

(1) 管理運営全般について

①施設の管理運営に対する方針等

公園独自の魅力を最大限に引き出すとともに、新たな花の見どころや仕掛けで「五感」「好奇心」「コミュニケーション」の満足度を向上し、いつもワクワクを感じる「ウォークアブルパーク」をめざします。

＜基本方針＞

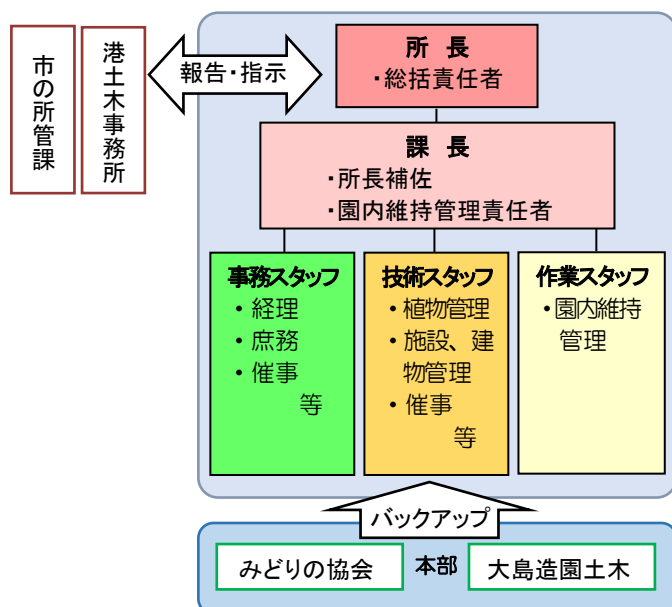
- 方針 1 市民や地域が誇る「癒しのラベンダーパーク」
- 方針 2 緑の恵みを体感できる「スタディパーク」
- 方針 3 誰もが集い、つながる「コミュニティパーク」

②管理運営体制

＜責任体制、職員の配置、職務の役割分担＞

公園の管理運営には現地の状況に応じて、問題の解決や変化への対応を速やかに実行する力が重要であると考えています。現地に責任者と有資格者を配置し、具体的な業務遂行については、企画立案から事業実施後の改善まで、基本的に現地が責任を持って担当する体制をとります。

現地で起きた課題は速やかにスタッフ間で情報共有するとともに、各自の担当業務に限らず相互に業務をフォローできるよう、朝礼や所内会議により日々情報を共有します。また、専門知識を持ったスタッフを的確な業務に配置し、円滑な管理運営に努めます。



現場内情報共有体制

- 朝礼
(業務の引継ぎ・指示/毎日)
- スタッフ会議
(サービス向上・職員倫理の徹底
/月1回以上)
- 荒子川公園運営委員会
(両本部も交えた管理運営に
関する協議/年3回)
など

＜人材育成＞

私たちは、「組織は人なり」という考えのもと、経験を活かした協会内研修と職員が積極的に専門知識やスキルを高められる資格支援制度を実施し、職員がスキルアップできる環境を整えます。

また、公園間の自主研究会「みどり発見ネット」で管理ノウハウの共有・蓄積を行うなど、人材育成の効果増進を図ります。

- ① 「公園管理運営士」「造園技能士」の配置と資格保有者の強化
- ② 普通救命講習（AEDの使い方）
- ③ 女性活躍推進育成
- ④ 公園管理全般に関わる研修（造園技術研修、接遇研修など）

（２）実施業務の計画について

①指定管理業務

＜協働＞

1 市民ボランティア活動の継承と、さらなる地域への拡がりを促進

- ① スキルアップ研修の実施（樹木剪定等の実践）
- ② 市民・地域とのつながりの強化（園芸福祉活動、中学生の職場体験などのサポート）
- ③ 他の公園ボランティアとの交流（スキルアップ研修や作業の合同開催など）

2 協働の強化により、地域コミュニティの場としての発展

- ① 「みんなでつくる みどりと花の案内マップ」作成
- ② 外部専門家との協働による市民活動の促進
（職員・ボランティアのスキルアップ講座の開催）
- ③ 町内会や近隣企業によるイベントの誘致
- ④ CSR 活動の誘致
- ⑤ 園芸福祉活動の充実による交流の促進
- ⑥ 近隣施設との連携によるワークショップの開催

＜施設の維持管理＞

1 訪れたいくなる、滞在したいくなる公園

- ① いつもきれいな公園（こまめなトイレ掃除・ごみ回収）
- ② 荒子川公園フォトスポットの提供
- ③ 毎日の園内巡視等による高度な維持管理水準の確保
- ④ 生き物の特性に応じた安心・安全対策の実施
（スズメバチ、セアカゴケグモなどの駆除等）

＜施設の修繕＞

園内木製ベンチの更新（毎年5基×5年＝25基）

＜緊急時の対応・環境対策＞

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
- ② 危機管理マニュアルに基づく緊急時対応等
- ③ ヒートアイランド現象の緩和（風のみちの整備を継続）
- ④ 生物多様性の保全（アズマヒキガエルの保全）

<植物管理>

- 1 利用者を惹きつける景観をつくる植物管理
 - ① 季節の花々による、何度も訪れたいくなる景観づくり
(季節に応じた花壇、多品種のラベンター栽培等)
 - ② ケヤキ並木による、公園を象徴する景観づくり
- 2 将来にわたって持続可能な環境をつくる植物管理
 - ① サクラの若返り剪定等による長寿命化
 - ② 環境に優しい植物管理
(植栽帯の環境にあった植物の栽培、土壌改良等の工夫をしたハナショウブの栽培等)
- 3 利用者が自然に親しむ場をつくる植物管理
 - ① 様々な活動ができる「風のみち」の活用
(健康講座、自然観察会、自然を満喫できる仕掛けの設置等)
 - ② 五感で楽しめるハーブ園の充実

<利用者サービス向上に資する施設の管理・運営>

- 1 健康づくり等、利用者の様々な活動への支援
 - ① 自然を体感するウォーキング・ジョギングコースの提供
 - ② 健康器具の増設
 - ③ BGMによるラジオ体操支援
 - ④ 自然を体感できる健康講座の提供 (ポールウォーキング等)
 - ⑤ 健康コーナーの運営 (プラザ内に血圧計・運動器具等の設置)
- 2 利用者層の変化にも対応した、誰もが快適に楽しめる公園づくり
 - ① 園内看板の多言語化対応
 - ② 乳幼児連れ・親子連れへのサービス向上
(ミルク用のお湯等の提供、キッズコーナーの設置等)

<接客対応、市民ニーズ・要望等の把握、その他利用者サービスの向上策等>

- 1 利用者満足度の向上に向けた接客対応
 - ① 積極的な声掛けによる安心感や親しみの醸成
 - ② 有資格者の指導による接客対応技術の向上
- 2 多角的な手法による市民ニーズの把握
 - ① アンケートやご意見箱による把握
 - ② 携帯キャリアなどのビッグデータの活用
 - ③ 利用者の「生の声」によるニーズの把握
 - ④ ニーズの把握結果の分析と対応
- 3 その他利用者サービス向上策
 - ① 防災イベントの開催
 - ② イベント等でのカフェスペースの貸出

<緑の普及・啓発事業への取組みや他施設との連携>

- 1 「体験」を重視した取組みによる緑の普及啓発の開催
 - ① 自然観察会やワークショップ等の開催
 - ② 「風のみち」による緑の効果の見える化 (風鈴等の仕掛けによる風の流れの可視化)
 - ③ 講座の開催による緑の効果の体感促進 (健康講座等)

2 「実践」を重視した講習会等による緑の普及・啓発
利用者ニーズを考慮した展示会・講習会の開催

3 他公園との連携による、効果的な緑の普及・啓発

- ① 緑の相談コーナーの充実（相談員による講習会の開催）
- ② 環境学習講習会等の開催
（プロジェクト・ワイルド、花育、ツリークライミング、野外料理体験）

4 他施設との連携による、緑の新たな魅力創出等

- ① 緑の新たな魅力創出
（近隣の緑地と連携したお花見ルートの設定、公共交通機関との連携）
- ② 子どもへの緑の普及・啓発促進（近隣児童館との連携）
- ③ 広域的な連携による緑の一層の普及・啓発
（あおなみ線活性化協議会とのウォークラリー等、AEL ネットとのスタンプラリーの開催等）

<ウォークアブルパークをめざす提案>

1 地域や市民が誇る「ラベンダーパーク」

- ① 公園を象徴する「ラベンダーのウェルカムガーデン」づくり
- ② 四季の魅力を感じられる癒しの公園づくり
- ③ ラベンダーのさらなる魅力向上
（ラベンダーの育て方講習会の他、花穂刈りやクラフト体験等）
- ④ ハーブ見本園の充実と魅力の発信（育てやすいハーブの紹介と栽培展示）

2 緑の恵みを体感できる「スタディパーク」

- ① 四季折々の花をはじめ、五感で自然の恵みを感じられる公園
（「風のみち」の適切な管理、健康講座や自然観察会等の様々な企画開催）
- ② 都市緑化植物園として整備された各見本園を利用した学びの公園
（園内の樹木等を利用した実地研修、中学生の職場体験、園芸福祉活動等）

3 誰もが集い、つながる「コミュニティパーク」

- ① 市民ボランティア活動の継承・発展
- ② 市民活動の積極的な誘致によるコミュニティの醸成促進
- ③ 障がいの有無によらず遊べる遊具の導入による多様性の醸成促進
（インクルーシブ遊具の新設）

4 アフターコロナを見据えた公園の新たな活用

5 港北エリアまちづくりにおけるみどりの拠点づくり

花の名所としての植物管理、SNS を利用した魅力発信、健康づくりとなるプログラムの提供、市民、コミュニティの活動の場として荒子川運河周辺の回遊性の向上となる公園を創る。

<既存施設の活用、イベントや展示会、講習会、利用プログラム等>

- ① 荒子川公園ガーデンプラザ 30 周年記念事業
（懐かしの写真展、ポスター・チラシ展、近隣保育園連携ワークショップの開催等）
- ② ガーデンプラザを活用した多世代が憩える空間の創出
（セルフカフェコーナーの設置、イベント期間限定カフェの開催等）

- ③ 新規企画による3大イベントの発展
- ④ ラベンダー体験イベントの充実
- ⑤ 自然を活用した健康講習会等の開催
- ⑥ ウォーキングイベントの充実による市民の健康増進
- ⑦ 子どもの好奇心を育てる体験学習プログラムの提供
- ⑧ 学校が利用できる体験学習プログラムの提供
- ⑨ 季節の展示会・イベントの開催

<広報・PRによる利用促進>

- ① 荒子川公園独自のウェブサイトの立ち上げ
- ② SNSによる情報発信の充実
- ③ 荒子川公園ニュースレターの配布（内容の充実・配布個所の拡大）
- ④ 複数公園を管理するスケールメリットを活かした広報
（協会ウェブサイト「行こうよ公園」や情報誌「行こうよ公園(季刊年 40,000 部発行)」
を使って、幅広く情報を発信)
- ⑤ フォトスポットの充実

<目標入館者数、利用者数>

ガーデンプラザの目標入館者数：28万人/年（実績 26万人の 10%増）

②自主事業

<公園の魅力向上・利用促進、より良い公園管理>

- ① バーベキュー機材等の貸出し及びゴミ回収
- ② 駅前広場のイルミネーション
- ③ 遊具の貸出し・販売
- ④ ラベンダーグッズ等の販売
- ⑤ ガーデンプラザ内の健康コーナーの充実
- ⑥ 子ども向け図書コーナーの設置
- ⑦ イベント、ワークショップ時のカフェスペースの貸出
- ⑧ 繁忙期におけるキッチンカーの出店

<喫茶コーナーの管理運営>

- ① 【繁忙期】 イベント、繁忙期における期間限定カフェの運営
- ② 【閑散期】 飲料、軽食自販機等によるセルフカフェコーナーの運営

(3) 収支計画について

①管理運営にかかる費用等

<年度ごとの指定管理料提示額>

(単位：千円)

令和5年度	115,425
令和6年度	115,425
令和7年度	115,425
令和8年度	115,425
令和9年度	115,425

<期間を通じた収支計画>

■収入

(単位:千円)

費目	内容	金額
指定管理料	名古屋市からの指定管理料	577,125
収益事業還元金		5,000
収入計		582,125

■支出

(単位:千円)

費目	内容	金額
人件費	人件費及び福利厚生費	214,660
光熱水費	電気、ガス、水道料金	47,500
管理費	清掃費、建物管理費、植物管理費、 修繕工事費等	234,245
事務費	消耗品費、備品購入費、広報・宣伝費、 一般管理費等	85,720
支出計		582,125

※額には消費税及び地方消費税を含む。

<収益還元>

自主事業で得た収益の2分の1を還元します。乳児連れ・親子連れの利用者が近年増加していることを考慮し、個室型授乳施設の設置、遊具の設置等に還元するとともに、施設の修繕等にも還元し、利用者サービスの向上を図ります。

<経費節減策>

1 光熱水費の経費節減

■電気の経費節減策

- ① 公園灯の点灯時間の最適化
- ② 契約電力会社の見直し・変更
- ③ 緑のカーテン・壁面緑化の導入
- ④ エアコン設定温度の徹底等

■水道の経費節減策

- ① 毎日の園内巡回による節水の実現
- ② 無水小便器の導入
- ③ 工業用水の活用
- ④ 雨水の活用

■SDGs達成のための環境負荷を低減したゼロエミッション資機材の導入

- ① トリマーなどの電池式機械の導入
- ② NETIS登録「温水除草工法」の導入

2 物品等の経費節減策

- ① 園路整備の節減（園内剪定木をチップ化し、園路に敷設）
- ② 消耗品費の節減（リサイクル用品の活用）

- ③ 共同購入・共同利用による備品費等の節減
- ④ 印刷費等の節減（事務資料等のペーパーレス可）
- ⑤ 花苗等購入費の節減（スポンサー花壇の活用等）

3 人件費の経費節減策

- ① 他公園との連携によるスケールメリットの活用
（複数の公園を管理しているメリットを活用）
- ② 植物管理資材の効果的な活用（防草シートの導入等）